

PRO X

DL431/DL231の使用時に発生する
リコールスコープによるDCトーンに関して



技術情報

症状	MIDAS PRO X/1/2/2C で G3.4.4 以下のバージョンを実行、および DL431/DL231 マイク・スプリッタ・ボックスを使用する際に、特定の「リコールスコープ」操作を行うと出力と PA 機器から DC トーンが発生することがあります。
解決方法	以下の手順、または別の解決方法に従ってください。
実行	この問題が発生したすべてのシステムで、必ず作業を行ってください。
技術者	経験豊富な MIDAS コンソールユーザー、またはサービスセンターの担当が作業を行ってください。

作業手順

この症状は、MIDAS PRO X/1/2/2C で G3.4.4 以下のバージョンを実行、および DL431/DL231 マイク・スプリッタ・ボックスを使用すると発生します。

リコールスコープ機能を使用して 48V を有効にしたヘッド・アンプをスコープアウトし、ショー・ファイル内のシーンを呼び出すと、48V が断続的に有効になり、出力/PA 機器へのオープンチャンネルにおいて DC トーンが発生することがあります。

この問題は、パッチング情報をショー・ファイル内の全てのシーンで保存し直すことで修正できます。パッチング・プリセットを使用すれば、簡単に設定/保存できます。

また、DL431/DL231 マイク・スプリッタ・ボックスの 48V を使用せず、サードパーティー製 48V 電源を使用することでも解決できます。

以上の設定についてご不明な点がございましたら、弊社までお問い合わせください。